

問1 室町時代、足利義満によって始められた中国（明）との貿易では、倭寇と呼ばれる海賊による密貿易と区別するために、ある証明書が用いられました。この貿易の名称と仕組みについて述べたものとして正しいものはどれですか。（2021年 宮城県公立入試 類似）

- 勘合（勘合符）という合札を使い、明の公認であることを証明した勘合貿易
- 朱印状という海外渡航許可証を用いた、東南アジア諸国との朱印船貿易
- 長崎に設置された唐人屋敷において、清の商人と限定的に行われた長崎貿易
- 平清盛によって大輪田泊が整備され、宋の貨幣を大量に輸入した日宋貿易

問2 室町時代の商業組織である「座」が、公家や寺社などの権力者に税を納めていた主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 山形公立入試 類似）

- 商品の販売における独占権を得たり、関所の通行税を免除されたりするため
- 海外貿易に必要な大型船を建造するための資金提供を仰ぐため
- 幕府による徳政令から自分たちの債権を守るための軍力を借りるため
- 全国一律の新しい通貨を発行し、商取引の混乱を防ぐため

問3 鎌倉時代から室町時代にかけて、交通の要地や寺社の門前などで、月に数回、決まった日に開かれた市場を何と呼びますか。ここでは、宋銭や明銭などの貨幣が盛んに使われるようになりました。（2016年 京都公立入試 類似）

- 定期市
- 楽市・楽座
- 問丸
- 座

問4 室町時代の歴史を記した資料において、応仁の乱が発生した背景として、將軍の跡継ぎ問題とともに「ある役職」を世襲する有力な家柄同士の対立が挙げられています。將軍を補佐し、守護大名の中から選ばれたこの幕府の最高職を何といいますか。（2019年 山口公立入試 類似）

- 管領
- 内管領
- 関白
- 守護代

問5 日本の伝統的な「浦島伝説」が記されている古典作品について、奈良時代にまとめられた日本最古の和歌集と、室町時代に成立した絵入りの短編物語の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2024年 大阪公立入試 類似）

- 万葉集と御伽草子
- 古今和歌集と浮世草子
- 新古今和歌集と御伽草子
- 万葉集と浮世草子

問6 室町時代の日明外交において、日本から明へ送られた書状や進物、および両国の関係について述べた文として適切なものはどれですか。（2019年 愛知公立入試 類似）

- 書状には足利義満による挨拶が記され、進物として金、馬、刀剣などが贈られたほか、漂流者の送還を通じて友好関係が築かれた。
- 書状にはキリスト教の布教許可が記され、進物として生糸や綿織物が贈られる代わりに、日本からは銀が大量に輸出された。
- 書状には清の皇帝への臣従が記され、鎖国体制下における唯一の例外として、長崎での定期的な貿易が約束された。
- 書状には元寇に対する賠償請求が記され、武力を背景とした威圧的な外交によって、明から大量の銅銭を獲得した。

問7 1428年（正長元年）に発生した大規模な社会運動において、農民たちが掲げた「徳政」という要求の具体的な内容を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）

- 借金の証文を破棄し、質入れしていた土地や品物を無償で取り戻すこと
- 大名が幕府の許可なく城の修理を行うことを厳しく制限すること
- 農民が武器を持つことを禁じ、耕作に専念させること
- 関所を廃止して、商人たちが自由に通行できるようにすること

問8 1467年に始まり、京都を主な戦場として約11年間にわたって続いた戦乱によって、京都の市街地は大きな被害を受けました。この戦乱の名称と、その後、京都の復興を担い祇園祭などの伝統的な祭礼を再興した、自治意識の強い商工業者の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）

- 応仁の乱・町衆
- 応仁の乱・惣
- 壬申の乱・町衆
- 壬申の乱・惣

問9 室町時代、商工業者が公家や寺社などの権力者に税を納める代わりに、商品の販売や製造の独占権を認められていた同業者組合を何と呼びますか。（2020年 徳島公立入試 類似）

- 座
- 株仲間
- 町衆
- 問

答え合わせ・解説

問1	答え 1 勘合（勘合符）という合札を使い、明の公認であることを証明した勘合貿易	室町時代の対外貿易において、当時の中国である明は倭寇を防ぐために正式な貿易船のみを認める方針をとりました。日本側は「勘合」と呼ばれる合札を持参し、明の役人が保管する札と照合させることで、海賊ではない正式な使節であることを証明しました。これにより、安全かつ確実な貿易が行われるようになりました。
問2	答え 1 商品の販売における独占権を得たり、関所の通行税を免除されたりするため	座を構成する商人や手工業者は、当時の有力者である公家や寺社を「本所（ほんじょ）」と仰ぎ、金銭を納めることで、特定の地域や市場での営業独占権や通行の自由を保障されました。こうした特権的な独占状態は、のちに織田信長らが「楽市・楽座」の政策によって解体を目指す対象となりました。
問3	答え 1 定期市	鎌倉時代には月に3回開かれる三斎市、室町時代には月に6回開かれる六斎市といった市場が各地で開かれました。これらは特定の日に開催されるため、まとめて定期市と呼ばれます。当時は日本で独自の貨幣が製造されておらず、中国から輸入された貨幣がこうした市場を通じて全国的な流通を支えました。
問4	答え 1 管領	応仁の乱は、將軍足利義政の跡継ぎ争いに加え、幕府の最高職である管領を世襲する畠山氏や斯波氏の家督争いが複雑に絡み合って発生しました。有力な守護大名が幕府の要職を占めていたため、家内の争いがそのまま幕府全体の政治抗争へと発展し、11年に及ぶ戦乱を招く原因となりました。
問5	答え 1 万葉集と御伽草子	浦島伝説は、奈良時代に編纂されたわが国現存最古の歌集である「万葉集」において、高橋虫麻呂によって歌として詠まれています。その後、室町時代になると、当時の民衆の間で親しまれた挿絵入りの短編物語である「御伽草子」の代表的な作品の一つとして、物語の形式が整えられました。
問6	答え 1 書状には足利義満による挨拶が記され、進物として金、馬、刀剣などが贈られたほか、漂流者の送還を通じて友好関係が築かれた。	日明貿易では、日本側からは金、馬、刀剣、扇などの特産品が献上品（進物）として贈られ、明側からはお返しとして大量の銅銭（明銭）や生糸、書画などが与えられました。また、海難事故による漂流者の送還といった人道的・外交的な対応も、国家間の信頼関係を維持する重要な要素となっていました。
問7	答え 1 借金の証文を破棄し、質入れしていた土地や品物を無償で取り戻すこと	正長の土一揆では、近江（滋賀県）の馬借や農民が中心となり、「徳政」を合言葉に酒屋や土倉といった高利貸しを襲撃しました。彼らの目的は、自分たちの借金が記された証文を破棄させ、担保としていた土地などの所有権を強引に回復させることにありました。これは室町幕府の権威を揺るがす大きな社会問題となりました。
問8	答え 1 応仁の乱・町衆	1467年に発生した応仁の乱は、將軍の継嗣問題や守護大名の対立などが原因で始まり、京都の大部分を焼失させました。この戦乱ののち、京都の有力な商工業者たちは「町衆」と呼ばれる集団を形成し、自治組織を作って町の警備や道路の整備、さらに祇園祭などの文化活動を支え、復興に尽力しました。「惣（惣村）」は主に農村部で作られた自治組織を指すため、都市部の町衆とは区別が必要です。
問9	答え 1 座	平安時代から室町時代にかけて、商人や手工業者は「座」を結成しました。彼らは「本所」と呼ばれる貴族や大寺社に奉仕や税を捧げることで、関所の通行税免除や商品の独占販売権などの特権を得ていました。この仕組みは、後に織田信長が「楽市・楽座」によって特権を廃止し、自由な貿易を促すまで続けました。選択肢の「株仲間」は江戸時代に幕府の公認を得て活動した組織です。